沖縄県薬剤師確保のためのアクションプラン（素案）への意見等に対する県の考え方

1　募集期間：令和４年11月29日（火）～12月28日（水）

2　意見の件数：４件（１団体）

3　意見の概要と県の考え方

	ページ	行	原　文	意見内容	県の考え方
1	5	28	県内での就業を条件として奨学金返済額の一部（年36万円を最長2年間）を補助し	大学生の視点から見れば、特に私立大学の薬学部の学費はとても高額なため、現状の県の支援額では魅力を感じない。薬学部は6年間通学しなければならず、2年間分の奨学金返済額の一部しか支援がないのでは、進学の動機になりづらい。今後、できる限りの拡充を進めてほしい。	本計画については、今後もその内容を充実させるために随時見直しを行う予定であり、御意見についても検討を行っていきます。
2	7	25	県内高校生等の薬学部への進学の支援・促進	薬剤師は、医師や看護師と比べて、医療職の中で、あまり目立たない存在であると感じる。テレビドラマ、アニメや漫画でも、薬剤師を主人公としたものは見当たらない。このため、中高生は、薬剤師の仕事にイメージを持つことができず、親しみを感じることができないのではないか。実際に、中高生の頃に、薬剤師の魅力について勉強する機会が全くなかったため、職業の選択肢に入らなかった。大学生になってから、薬剤師が、多くの県民の暮らしを支えるだけでなく、時給がよく、安定した職業であることなど、多くのことを知った。このため、県内の中高生向けにセミナーを開き、薬剤師から実務経験をふまえつつ、その魅力を伝える機会を作ってほしい。また、インターンシップの就業先として、ドラッグストアに行く機会を作ってほしい。当時、こうした機会があれば、薬剤師が選択肢の1つに入ったのではないかと感じる。	県では、10月の「薬と健康の週間」において小中高生を対象に調剤体験を行ったり、インターン推進事業等において高校生の就業体験の推進を図っているところですが、さらに取組を拡充する必要があると感じているところです。 いただいた御意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。
3	7	26	県内国公立大学への薬学部設置に向けた検討・準備	高校生の頃、薬学部への進学には県外の大学に進学する必要があることから、選択肢に入れず、看護師の道を選んだ同級生もいた。沖縄県内に薬学部があれば、6年間、自宅から通学できるため、金銭面からも選択肢が広がると考える。特に、県内に国公立大学の薬学部が設置されれば、沖縄の薬剤師不足は解消に向かうのではないか。ぜひ積極的に推進してほしい。	県内国公立大学に薬学部を設置することは、本県の薬剤師不足を解消するための有効な方策の一つであると考えています。 今後も、関係機関との密接な連携の下、県内国公立大学への薬学部設置を早期に実現するため、取り組んでいきます。
4	7	33	復職・就職研修の実施など	薬剤師は専門性が高い職種であり、県民から、常に新しい薬の知識を習得していることを期待されている。実際にドラッグストアで、薬剤師に説明をしていただき、とても頼もしく思った。現場で高度な知識を求められることから、一度、出産や子育てのために家庭に入った薬剤師は、不安を感じるのではないか。復職を希望する薬剤師がスムーズに現場に戻ることができるように、ブランクを埋められるような「座学研修」、「お試し復職」などの機会を作ってほしい。こうした取組を通じて、より多くの薬剤師に活躍してほしい。	本県には、出産や子育て等の理由により、薬剤師としての現場から離れた方が一定数いるものと考えており、復職のための研修等による支援が求められていると考えています。 いただいた御意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。